

應永卅年三月十五日
(纂書) 此文於京都可有御札明之由也。

在判

永文 在判

上使 在判

永享十年三月 日

(馬牒とあるは、貞和五年四月十一日の條に見えたる馬繫に同じ。)

八月十日。松田基秀、鳳至郡總持寺に、同寺前住月泉和尚の粥料として町野莊和住村の田地を賣渡す。

七九六

【總持寺文書】 鳳至郡

(卷上書)

月泉和尚粥料之田地賣券

寄進 前住正法寺正金首座

依有用々永代賣渡申田地之事

合肆佰疋者 每年之年貢伍貫文

右件田地者、能登國町野庄和住村本郷領家五之田名之内限肆佰疋、以同國於櫛比庄惣持寺爲前住月泉(長印)和尚之

每月廿四日粥飯新代、伍十貫文賣渡申所實也。但於彼所領者、雖爲公方之御恩之地、愚身於子々孫々相續之間者、全不可作異儀變改懸万象公事申。若於以後背此旨輩者、基秀非子孫、可不孝之仁。仍爲後日賣券之狀如件。

應永三十年八月十日

賣主能登國町野和住領家

松田三郎左衛門基秀 在判

○ 【總持寺文書】

七九七

預申 町野庄和住村領家五田名事

合肆佰疋者每年分年貢伍貫文

右於彼年貢者、每年八月中旬無懈怠惣持寺納所方へ合切割、無闕如可沙汰申候。若於年貢闕如候者、作人可改易候也。仍爲後日請狀如件。

應永三十年八月十日

町野庄之内和住村住人

齋藤三郎右衛門尉清俊 在判

八月十二日。足利義持、山城北野宮寺に、江沼郡富墓莊の地を寄進す。

七九八

【集古文書】

寄附

北野宮寺

加賀國富墓庄治長知行分事

右所寄附當社之狀如件。

(足利義持) 菩薩戒弟子

應永卅年八月十二日

八月。瑞巖韶麟、峨山紹碩の書せる鳳至郡總持寺開山瑩山紹瑾の野位牌を同寺の庫下に納む。

七九九

【總持寺文書】 鳳至郡

(包紙上書) 御開山野位牌副狀

惣持寺開山大和尚御涅槃之時、當山二代峨山大和尚以御眞筆被書御位牌、同逝偈共隨而前住當山十三世韶麟爲世々末代願書記之、入錦袋奉納寺庫。于時

日本應永三十年八月 開山忌謹誌

韶麟 在判

應永卅一年 甲辰 紀元二〇八四

六月十二日。得田章全、松王丸に、羽咋郡得田保代田の内を讓渡す。

八〇〇

【得田文書】

能登之國羽咋郡得田保

代田村之内女子分讓渡田畠事

右件之在所へ、雖(安脫カ)子有所、有志松王丸ニ讓渡處實也。田畠之事ハ本讓狀爲見。長々子々孫々于至、他之煩不可有仍爲後日讓狀如件。

應永卅壹年歲次甲辰六月十二日

得田兵庫入道章全 在判

八月。鳳至郡總持寺五院の住持等、開山瑩山紹瑾の佛事中僧衆の接客を停止す。

八〇一

【總持寺文書】 鳳至郡

應永卅一年甲辰